

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

協議会名： 川崎市地域公共交通会議分科会

評価対象事業名： 地域公共交通バリア解消促進等事業(バリアフリー化設備等整備事業)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
川崎市交通局	ノンステップバスの計画的な更新	高齢者や障害者等を含めた利用者の移動の円滑化と利便性の向上を図るため、事業計画においてノンステップバス導入の定量的な目標設定を行った。	A H28年度は、4両導入を予定していたが、藤子ミュージアム5周年記念事業に伴うバスデザインリニューアルのため、2両追加購入し、事業実施した。	A H28年度は、計画より2両多い6両導入し、乗合バス車両におけるノンステップバス導入率は94.4%となり、病院や区役所をはじめとした、ほぼすべての路線にノンステップバスを導入しており、バス利用者の移動の円滑化・利便性の向上を図った。	今後も利用者の移動の円滑化と利便性の向上に向けて、引き続き取組を進める。
川崎鶴見臨港バス(株)	ノンステップバスの計画的な更新	国、自治体、事業者との適切な役割分担を行うことができた。このため、今後も同様に実施していく。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 平成28年度は計画どおり21両のノンステップバスの導入を行った。導入率は79.5% 利用者の利便性の向上を図った。	引き続き32年度の目標に取り組んでいく。
東急バス(株)	ノンステップバスの計画的な更新	路線状況や需要予測に基づきダイヤ改正や配車計画に取り組んでいる。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A 平成28年度は計画どおり7両を導入し利用者の移動円滑化・利便性向上を図った。	全車がバリアフリー新法適合車両ではあるが、平成32年度の目標達成に向けて更なる取り組みを進める。
小田急バス(株)	ノンステップバスの計画的な更新	平成23年度末から既にノンステップバスの導入率は100%となっている。	C H28年度は3台導入予定だったが、事業計画変更により0台だった。	A 平成29年度は11台の導入予定があり、利用者の移動の円滑化・利便性を確保する。	今後も利用者の移動の円滑化と利便性の向上に向けて取り組みを進める。

